



高名なお坊さん(その28)

真盛上人(西暦1443年~1495年) 天台宗真盛派開祖

戦国時代の天台宗の僧。諡号は円戒国師・慈摂大師。伊勢国一志郡仰木(三重県津市一志町)の出身。

比叡山西塔の慶秀に師事し、天台宗の教学を学んだ。その後、同所にある黒谷青龍寺に隠遁し、「往生要集」に拠り称名念仏を唱えた。戒律と称名念仏の一致を唱え、宮中や公家・女官・守護などに無欲と慈悲を説いた。かつて良源や源信などが住み、円

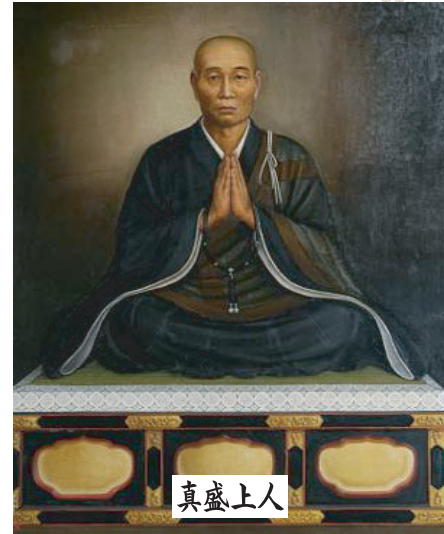


真盛上人肖像画

観が円頓戒の本寺としたこともある近江国坂本の西教寺を再興して、天台宗真盛派の本寺とした。

近江のほかにも、山城・越前・若狭・伊勢・伊賀・摂津などの諸国を巡って布教に努め、生涯にわたって清貧と求道を貫いた名僧として慕われている。

真盛上人肖像画は、縦133センチ、横72センチ。墨染の衣で合掌する上人の姿を描き、「黒衣の御影」と呼ばれている。高僧の肖像画によくみられる色鮮やかな袈裟や仏具が描かれておらず、「無欲清浄」と遺言した上人にふさわしい肖像画で、室町時代の高僧肖像画の傑作のひとつに数えられている。



真盛上人



真盛上人像



宮川喜久子さんによる仏婦綱領唱和



仏教婦人会総会

仏婦役員の皆さまは、さぞかし、お疲れになられたことでしょうか。とっても美味しい、お齋(精進料理)、有り難うございました。

器で出して頂くことになりました。

最初は、器を洗う手間を省くため、お弁当形式にしてはと思いましたが、それでは厳かな感じにならず、持て成し感も出ないので、一品ずつ、器で出して頂くことになりました。

理)を作って下さいました。

お齋(精進料理)を復活させよう!との声が上がった訳です。仏婦役員さんが、手分けしてお野菜を持ち寄って下さり、必要な調味料は購入し、前日から仕込みに入れ、当日も早朝より、お齋(精進料理)を作って下さいました。

最初は、器を洗う手間を省くため、お弁当形式にしてはと思いましたが、それでは厳かな感じにならず、持て成し感も出ないので、一品ずつ、器で出して頂くことになりました。

四年ぶりの、報恩講式のお齋(精進料理)が復活。寒い時期ゆえに、コロナ、インフルエンザはまだまだ予断を許さない状況が続ぎ、お齋(精進料理)は時期尚早なのでは?との意見もありました。そんな中、

仏婦会長さんをはじめ、仏婦役員の皆さまが一致団結して、「報恩講式

住職レター

三月一日(金曜日)と二日(土曜日)の二日間、善教寺仏教婦人会報恩講並びに仏婦会員還浄者の追悼法要を勤め、仏教婦人会の総会も無事に終えることが出来ました。何より嬉しかったのは、報恩講式のお齋(精進料理)を振舞えたこと。コロナ禍では、お齋(精進料理)が出せず、法要時間も短縮して勤めてきました。

ゆかりの寺シリーズ その31

尼子晴久 ゆかりの寺
「隆興寺 (臨済宗妙心寺派)」



隆興寺

尼子晴久は、出雲の月山富田城（島根県安来市）を基盤として8カ国を領有した守護大名。尼子氏はもともと守護代だったが、代々勢力を拡大し、晴久の代では石見銀山を手中に収めて最盛期を迎える。

長年にわたる毛利氏と尼子氏の攻防の結果、永禄9（1566）年に尼子氏は月山富田城（島根県安来市）を開城し、毛利氏に降伏。義久、倫久、秀久の三兄弟は長田の円明寺に護送され、長田の領主であった内藤元泰によって、昼夜問わず厳重で丁寧な監護を受けた。

幽閉は23年間にも及び、その後、三兄弟は志路（白木町）に移り住み毛利家臣となった。

正保3（1646）年頃、尼子宗久（尼子義久の弟・倫久の次男）が隆興寺を開基する。



尼子晴久



尼子晴久の墓

「花まつり」

（お釈迦様の誕生を祝う法要）（善教寺本堂）

四月 六日（土）

午前10時〜 朝席
午後一時半〜 昼席

講師 堀靖史師

（東広島市志和町光源寺）

「宗祖聖人月忌」

「門信徒祥月命日法要」（善教寺本堂）

四月 十六日（火）午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「安居会（夏の法要）」（善教寺本堂）

六月二十二日（土）

午前10時〜 朝席
午後一時半〜 昼席

講師 久留島法暁師

（広島市安佐北区落合圓正寺）



今後の法要スケジュール

感謝

ご縁に 善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp